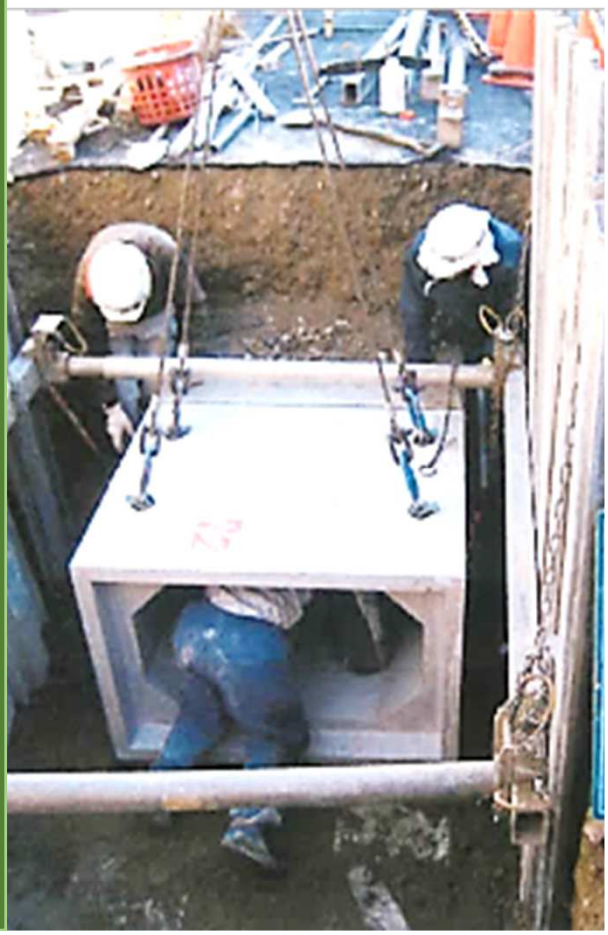
令和５年度（２０２３年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目　　次

１．予算編成方針　・・・・・　１

２．業務の予定量　・・・・・　１

３．予算の規模　・・・・・　１

４．予算の詳細　・・・・・　２

５．主要施策（雨水事業）　・・・・・　４

６．主要施策（汚水事業）　・・・・・　５

７．管路の耐震化の状況　・・・・・　６

８．主な経営数値　・・・・・　７

９．職員の内訳　・・・・・　８

１．予算編成方針

下水道事業は、人口減少等により収入増が見込めない一方、国内外の社会情勢の変化による物価上昇の影響を受け、これまで以上に無駄のない経営が求められています。しかし、ヒト・モノ・カネの経営資源には限界があるため、いわゆる減量型改革だけでは解決が難しく、これまでの手法や考え方にとらわれない新しい発想による事業展開を図っていく必要があります。これらのことから、令和５年度は、令和３年８月に見直しを行った宝塚市下水道事業経営戦略（以下「経営戦略中間見直し」という。）に計上した「浸水対策事業」や「武庫川ポンプ場改築事業」「重要な汚水管路の更新事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した新しい取組を行います。

２．業務の予定量

（１）年度末水洗化人口　226,370人

令和４年度予算数値から「経営戦略中間見直しに計上した令和５年度の年度末水洗化人口と令和４年度の年度末水洗化人口の差」を差し引いた値を計上しています。

（人）

	水洗化人口	増減
令和元年度（決算）	229,350	－
令和２年度（決算）	228,759	△591
令和３年度（決算）	227,864	△895
令和４年度（予算）	227,338	△526
令和５年度（予算）	226,370	△968

（２）年間有収水量　23,216,668㎥

経営戦略中間見直しの数値を計上しています。

（㎥）

	有収水量	増減
令和元年度（決算）	23,183,140	－
令和２年度（決算）	23,730,936	547,796
令和３年度（決算）	23,444,797	△286,139
令和４年度（予算）	23,271,111	△173,686
令和５年度（予算）	23,216,668	△54,443

３．予算の規模

令和５年度の支出総額（収益的支出と資本的支出の合計額）は7,361,884千円で、令和４年度の当初予算と比較して575,545千円減少しています。これは、前年度（令和４年度）と比較して企業債償還金と支払利息が合わせて558,601千円減少したことが主な原因です。

（１）収益的収入及び支出

下水道事業収益　4,316,677千円

下水道事業費用　4,499,563千円

収支差引
△182,886千円

（２）資本的収入及び支出

資本的収入　1,042,826千円

資本的支出　2,862,321千円

収支差引
△1,819,495千円

4．予算の詳細

（１）収益的収入及び支出　　（千円）

区分		令和5年度(当初)	令和4年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収入	1 営業収益	3,146,681	3,208,649	△ 61,968	98.1	
	(下水道使用料)	(2,481,304)	(2,487,635)	(△ 6,331)	(99.7)	※1
	(雨水処理負担金)	(657,391)	(712,982)	(△ 55,591)	(92.2)	※2
	(他会計負担金)	(7,378)	(7,378)	(0)	(100.0)	
	(その他営業収益)	(608)	(654)	(△ 46)	(93.0)	
	2 営業外収益	1,169,495	1,177,472	△ 7,977	99.3	
	(受取利息)	(3)	(3)	(0)	(100.0)	
	(国庫補助金)	(500)	(500)	(0)	(100.0)	
	(他会計負担金)	(49,387)	(54,311)	(△ 4,924)	(90.9)	
	(他会計補助金)	(406,205)	(409,282)	(△ 3,077)	(99.2)	
	(長期前受金戻入)	(708,464)	(708,389)	(75)	(100.0)	
	(その他営業外収益)	(4,936)	(4,987)	(△ 51)	(99.0)	
	3 特別利益	501	501	0	100.0	
	(固定資産売却益)	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	(過年度損益修正益)	(500)	(500)	(0)	(100.0)	
	計	4,316,677	4,386,622	△ 69,945	98.4	
支出	1 営業費用	4,105,514	4,031,341	74,173	101.8	
	(人件費)	(160,071)	(203,312)	(△ 43,241)	(78.7)	※3
	(修繕費)	(242,213)	(222,713)	(19,500)	(108.8)	※4
	(委託料)	(157,727)	(180,673)	(△ 22,946)	(87.3)	※5
	(負担金)	(171,858)	(204,047)	(△ 32,189)	(84.2)	※6
	(流域下水道維持管理費)	(1,162,182)	(1,047,077)	(115,105)	(111.0)	※7
	(減価償却費)	(2,150,858)	(2,132,525)	(18,333)	(100.9)	
	(その他)	(60,605)	(40,994)	(19,611)	(147.8)	※8
	2 営業外費用	382,548	420,127	△ 37,579	91.1	
	(支払利息)	(222,548)	(260,127)	(△ 37,579)	(85.6)	※9
	(消費税)	(135,000)	(135,000)	(0)	(100.0)	
	(その他営業外費用)	(25,000)	(25,000)	(0)	(100.0)	
	3 特別損失	1,501	2,001	△ 500	75.0	
	(固定資産売却損)	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
	(過年度損益修正損)	(1,500)	(2,000)	(△ 500)	(75.0)	
	4 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
	計	4,499,563	4,463,469	36,094	100.8	
収　支　差　引		△ 182,886	△ 76,847	△ 106,039		

※1　経営戦略中間見直しの数値を計上。

※2　雨水台帳整備30,000千円が令和4年度に完了したため前年比減少。

※3　退職給付引当金繰入額20,000千円減少により前年比減少。

※4　マンホールポンプの修繕が14,619千円増加したことにより前年比増加。

※5　雨水台帳整備30,000千円が令和4年度に完了したため前年比減少。

※6　令和4年度は新庁舎の備品整備の負担金22,385千円などがあったことにより前年比減少。

※7　電力料金の高騰などにより前年比増加。

※8　新庁舎に係る賃借料16,921千円増加したことにより前年比増加。

※9　企業債残高減少により前年比減少。

（２）資本的収入及び支出　　（千円）

区分		令和5年度(当初)	令和4年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収入	1 企業債	832,300	1,554,950	△ 722,650	53.5	※10
	2 国庫補助金	57,000	27,500	29,500	207.3	
	3 他会計負担金	147,023	129,262	17,761	113.7	
	4 工事負担金	5,812	3,271	2,541	177.7	
	5 水洗便所改造資金回収金	690	640	50	107.8	
	6 固定資産売却代金	1	1	0	100.0	
	計	1,042,826	1,715,624	△ 672,798	60.8	
支出	1 建設改良費	1,066,861	1,157,478	△ 90,617	92.2	
	（事務費）	(62,862)	(56,182)	(6,680)	(111.9)	
	（公共下水道整備費）	(765,784)	(863,297)	(△ 97,513)	(88.7)	※11
	（流域下水道整備費）	(188,815)	(211,793)	(△ 22,978)	(89.2)	
	（固定資産購入費）	(49,400)	(26,206)	(23,194)	(188.5)	※12
	2 企業債償還金	1,784,380	2,305,402	△ 521,022	77.4	※13
	3 貸付金	1,080	1,080	0	100.0	
	4 予備費	10,000	10,000	0	100.0	
	計	2,862,321	3,473,960	△ 611,639	82.4	
収　支　差　引		△ 1,819,495	△ 1,758,336	△ 61,159		

資本的収支不足額1,819,495千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※10　資本費平準化債の借入額が573,350千円減少したため前年比減少。

※11　主な内容は以下のとおりです。
浸水対策事業 295,200千円（詳細は4ページに記載）
武庫川ポンプ場改築事業 30,000千円（詳細は4ページに記載）
管路等更新事業 195,930千円（詳細は5ページに記載）
重要な汚水管路の更新事業 103,860千円（詳細は5ページに記載）
未水洗化区域施設整備事業 18,900千円（詳細は5ページに記載）
内水ハザードマップ作成事業 35,600千円

※12　主な内容は以下のとおりです。
遠方監視クラウド化事業 40,612千円（詳細は4ページ、5ページに記載）

※13　企業債残高減少により前年比減少。

５．主要施策（雨水事業）

（１）浸水に対する取組

① 浸水対策事業（予算額295,200千円）

近年頻発しているゲリラ豪雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組みます。

場所	内容
向月町	既設排水構造物撤去 L=320m ＢＯＸカルバート設置
寿町	水路改修工事　L=260m
小浜5丁目	尼宝雨水幹線呑口部（ドロップシャフト）改良

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

② 調整池維持管理事業（予算額10,000千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれガ丘1丁目	機械除草　3,400㎡ 樹木除去　600本

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料

（２）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額30,000千円）

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、改築を行います。

場所	内容
武庫川町	土木構造物の重要構造部材の詳細診断

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（３）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額31,460千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
山本地区一円	水門ゲートのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費

６．主要施策（汚水事業）

（１）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業（予算額195,930千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を実施し、その結果を踏まえて更新を行います。

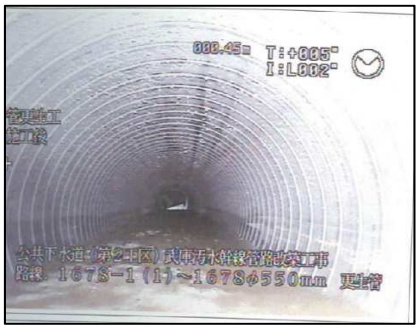
場所	内容
山手台東、 山手台西　外	管渠内清掃 L=15km TVカメラ調査 L=14km
中山桜台　外	コンクリート管　L=1,386m管更生

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（２）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業（予算額103,860千円）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路について耐震化工事を行います。



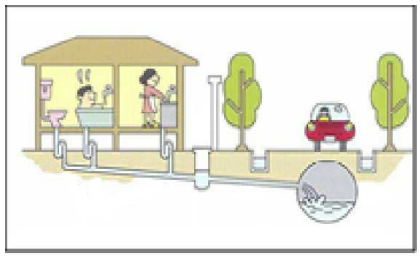
場所	内容
中州 ～亀井町	コンクリート管路　φ1000、 L=1,600m　ボーリング調査
中筋6丁目 ～ 中筋7丁目	□400*800 ＢＯＸカルバート L=460m　管更生

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（３）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業（予算額18,900千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。



場所	内容
安倉西1丁目	汚水管路φ200　L=200m マンホールポンプ

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（４）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額9,152千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
花屋敷荘園　外	マンホールポンプのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費

７．管路の耐震化の状況

（１）重要な汚水管路の耐震化率

下水道管渠が損傷した場合、使用者への影響が大きい管路や社会的影響が大きい緊急輸送路、軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。令和４年度は切畑汚水幹線（延長L=497ｍ）の耐震化に取組み、前年度に比べ7.2%向上したものの目標値を4.3%下回りました。実施予定であった山本野里１号汚水幹線（延長L=1,366m）について、詳細設計に時間を要したため、繰越となり目標値に達することができませんでした。令和５年度末には目標値を上回る予定です。

（管路延長　L=6,900m）

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
目標値（%）	43.1	47.4	57.9	68.4	79.0
実績値（%）	33.8	40.7	56.9	64.1	83.9

（２）汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。令和４年度は宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施しましたが、目標値を0.9%下回りました。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長　L=522,454m）

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
目標値（%）	19.6	20.5	21.4	22.4	23.3
実績値（%）	20.3	20.6	21.2	21.5	21.9

※　目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

８．主な経営数値

（１）経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%以上では利益が生じています。令和５年度は100%以上となっていますが、全国平均107.0%、類似団体平均106.4%（令和３年度）と比較すると、本市の数値は低くなっています。この問題などについて、令和３年11月から、上下水道事業審議会で審議していただいています。

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
経常収支比率（%）	110.3	106.1	99.6	100.7	100.1

（２）純利益及び未処分利益剰余金

令和５年度の純利益はわずかに黒字を達成する見込みとなっています。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和３年度に純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
当年度純利益（千円）	410,656	239,675	0	21,431	1,667
未処分利益剰余金（千円）	2,359,266	2,598,941	2,598,941	2,620,372	2,622,039

（３）借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和５年度は５億円の借入を予定しており、令和６年度までは借入が必要と見込んでいます。しかし、令和７年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
借入金残高（千円）	370,000	670,000	970,000	1,270,000	1,770,000

（４）汚水処理原価及び使用料単価

汚水処理原価は１㎥の汚水を処理するのに要する費用、使用料単価は１㎥あたりの平均収益です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和元年度末	令和２年度末	令和３年度末	令和４年度末（見込）	令和５年度末（見込）
汚水処理原価（円）	112.1	108.4	112.3	116.9	119.7
使用料単価（円）	97.2	87.1	96.6	92.4	97.2
差引（円）	△14.9	△21.3	△15.7	△24.5	△22.5

９．職員の内訳

平成29年度（実績人数）から令和５年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和５年度はストックマネジメント計画を円滑に推進するために技術職員を１名増員し、23人の予算を計上しています。

（人）

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
平成29年 4月1日現在	正規職員	6	11	2	19
	再任用職員	1	3	0	4
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	14	2	23

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
平成30年 4月1日現在	正規職員	5	11	2	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	6	15	2	23

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
平成31年 4月1日現在	正規職員	6	11	1	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
令和2年 4月1日現在	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
令和3年 4月1日現在	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
令和4年 4月1日現在	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22

		事務職員	技術職員	技能職員	合計
令和5年度 予算	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23

※　平成29年度から令和4年度までは実績人数、令和5年度は予算措置人数